CHIIKI DE JOSEI SANKAKU
地域における女性参画推進事業
ともまち新聞 TOMOMACHI ともに、まちを、つくる。

2026年（令和8年）８月 第5号
発行：長浜市 市民協働部 市民活躍課
お問い合わせ ☎：0749-65-8711
mail：katsuyaku@city.nagahama.lg.jp

◆ まんがde発見　◆ インタビュー：高時地区地域づくり協議会のお二人　◆ 今年度の女性参画推進事業について

まんが de 発見

～アンコンシャス・バイアスに気づこう～

作画：滋賀県立大学 京樂ゼミ 平岡 千聖（ひらおか ちせ）さん

※ これがアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）です！

お住いの地域でも、「これは男性がやる仕事、これは女性がやる仕事」のような決めつけはありませんか？

INTERVIEW 地域のキラキラさん見い～つけた！ 大学生が地域に飛び出しインタビュー

「困りごと」から始まった、地域活動への道

高時地区地域づくり協議会（長浜市木之本町）会長 山内（やまうち） 美和子（みわこ）さん／事務局長 山内（やまうち） 真紀（まき）さん

インタビュアー　滋賀県立大学　小滝（こたき） ひまり さん

「高時地区地域づくり協議会」では 、地域住民の居場所づくりを行っています。現在、委員は34名で、その3分の1を女性が占めています。

今回は、子どもの見守りやイベントを企画する「子ども部会」に携わる高時地区地域づくり協議会（＝地協）会長の山内美和子さんと、地域活力プランナーの山内真紀さんにお話を聞きました。

「子どもの預け先がない」という地域住民の困りごとに対して急いで児童クラブを立ち上げる必要が生じたことがお二人が地協に参加したきっかけでした。児童クラブを立ち上げた後も、子どもの遊び場としての森づくりやイベントを企画し、地域住民同士の顔の見える関係づくりを行っています。

部会では、会議形式にとらわれず、雑談から話を広げて企画を形にしています。若い世代の提案も前向きに取り入れられ、**年齢や性別を問わず、多様な価値観が反映される場**となっています。その結果、誰もが気軽に地域活動へ関われる雰囲気が生まれています。

お二人は地域課題を自分事として捉える姿勢と、良い方向へ進むと信じるポジティブさを大切にされていました。こうした価値観が、地域課題に向けた前向きな行動を支えていると感じました。

▲インタビューを受ける
地協会長の山内 美和子さん（右奥）と
地域活力プランナーの山内 真紀さん（右前）

✦ インタビューを経て（編集後記）

お二人は、**「住民の皆さんに楽しんでもらいたい！」という強い想いに溢れていました。**誰かが動くのを待つのではなく、自分から主体的に行動を起こすその姿勢が、地域を動かす原動力なのだと実感しました。人と人との繋がりを何よりも大切にする地協の取り組み、そんな高時地区の温かさと懐の深さこそが、これからの高時地区の活力になるのだと感じました。

「ともまち新聞」の作成には、ジェンダーについて学ぶ「滋賀県立大学 京樂ゼミ」の皆さんにご協力いただいています！

令和８年度地域における女性の参画推進事業のおしらせ

長浜市では、自治会や地域づくり協議会など、地域を支える組織で担い手不足が深刻化しています。滋賀県の調査によれば、市内の自治会役員（会長・副会長）に占める女性の割合はわずか**0.9%**。地域運営の担い手が固定化する一方で、女性を含めた多様な人が関わることで、新しい考えや面白いアイデアが生まれ、活気ある地域社会につながっていくことが期待されています。こうした課題を受け、市は今年度も「地域における女性の参画推進事業」を実施しています。

①連続講座、②アドバイザー派遣、③ともまち新聞発行の3本柱で地域の皆さんとともに「多様な関わり」を進めていきます。

①地域の女性参画を進める連続講座

地域づくりに多様な人が関わるきっかけとなるよう、身近なテーマで学びの場を開きます。

■ 過去テーマ

地域防災、関わりづらさの壁、地域活動アップデート
対象：どなたでも／参加無料

詳細はQRから ▶ 長浜市HP「地域の女性参画を進める連続講座」

②女性参画推進アドバイザー派遣

女性の参画を検討している団体に、専門的な知識をもつアドバイザーを無料で派遣します。

■ 対象：市内の自治会・連合自治会
地域づくり協議会等

1団体3回まで／1回2時間程度

詳細はQRから ▶ 長浜市HP「アドバイザー派遣」

③「ともまち新聞」発行

この新聞です！ 地域における女性参画の現状や、取り組む地域の情報地域でのインタビューをお届けします。

■ 発行：年4回
自治会組回覧、まちセン
図書館等で配布

バックナンバー ▶ 長浜市HP「ともまち新聞」